

おいしいね!

生協 アイチョイス 岐阜 機関紙



2025.1
水仙 (スイセン) 号

花の少ない時期に凛と咲く水仙
改良の歴史は100年を超える

発行責任者
生活協同組合アイチョイス岐阜
理事長 子安 貞継
☎058-215-5566

あっという間に過ぎ去ったクリスマスにお正月。
新しい気持ちに切り替えていきましょう!

秋松さんの
いつものコラム

想像し実現するとは

より安全安心で、なおかつ安い牛乳を求めた主婦の手で、
岐阜に生活協同組合が生まれたのは1970年代のことでした。
その中で食の安全、環境問題などを大勢の組合員と共に学び、
情報を共有し草の根のような運動を始めました。



この50年の間に社会情勢も徐々に変わり、紆余曲折を経て今日に至りました。
この間ずっと気がかりだった日本の農業、食の安全、環境問題をもう一度前向きに考え、
何か出来る事はないかと思い、ひとつ上の安心安全を謳う
生活協同組合アイチョイス岐阜の組合員になったのです。

そこには私と同じ想いやそれを行動に移す事が出来る何かがあると思ったからです。

そしてアイチョイス岐阜の組織の中に学習活動と商品活動が生まれ、
理事を始めとして組合員、生産者との交流が始まりました。
その時に「足るを知る」「もったいない」という言葉を再確認したのです。

しかし間もなくコロナが始まり、活動がままならなくなりましたが、
この中で組合員の心を反影させた、アイチョイス岐阜の背骨となる“理念”と“ビジョン”が
生まれ、それをもとに「はなしルフレンズ」「テーマ会」という組合員交流の場が発足しました。
「はなしルフレンズ」ではテーマを決めずに思ったことを組合員が話し、
その中から参考になることを拾い上げていく会です。
「テーマ会」は将来を見据えて今から始めなくてはならない事(例えば、日本の食糧、農業
化学物質による汚染、教育、老後のことなど)を話を聞いたり、意見を出し合う会です。

考える事も何かを行動に移す事も一人より二人、十人ともっと多くの人が集まれば
不可能に見える事も可能になると思うのです。
今を見据えてよりよき未来を想像し実現していければと思っています。

[Y.A]

おいしいね!

第二回 オーガニックについて一緒に学びませんか
 誰もが国産オーガニック野菜・食品を食べられる社会を目指して 11/21
講師 大宮 隆博 (生活協同組合連合アイチョイス理事長 / 特定非営利法人ORGANIC SMILE理事長)
 ■多治見市 根本交流センター

昨年岐阜市で開催した企画を、今年は東濃地域で行いました。
少しでも多くの方に国産オーガニックのことを知ってもらい、
広げていきたいという思いから生活協同組合連合会アイチ
ョイス理事長の大宮隆博さんに講演していただきました。



さて皆さんはこのマーク  を目にされた時、どのような印象を持たれますか?
日本では、ちょっと特別なもので値段が高いと思われる方が多いかもしれません。有機JASマークは太陽と雲と植物を
イメージしたもので、自然界の力で生産された食品を表し、厳しい検査や条件を満たしていないと付けることのできない
ものです。そんな国産オーガニックの食品をなぜアイチョイスは推進しようとしているのでしょうか?

それは近年の食料自給率の低下や農業従事者の減少が加速していること。さらに食料や農業資材を輸入に頼っている
日本は、中国やインドに買い負けて思うように確保できなくなってきているなど、近い将来に食糧事情が大きく変わる
可能性があるからです。私たちの食料を確保するためには、農業従事者の減少に歯止めをかけ、輸入に頼っている化学肥料
から循環型の有機肥料(草などの緑肥・鶏糞・牛糞など)に転換していくことが必要です。そのために私たちが今できること
は、そうした農業をがんばってやっている生産者を応援することだと考えています。

アイチョイスでは、小祝政明先生が提唱されているBLOF理論に基づいた有機栽培を推し進めるために、熊本県に
あるオーガニックスマイル(有機の学校)の支援をし、新規就農を目指す方をサポートしています。BLOF理論に基づいて
栽培された有機野菜は栄養価が非常に高く、味も良く、何より安心して食べることができます。大宮さんによると、
アイチョイスの三生協(あいち生協・一宮生協・アイチョイス岐阜)の中で野菜の購入額を占める割合が一番多いのは、
アイチョイス岐阜だそうです!これにはちょっと驚きました。他生協に比べて岐阜は自家生産している方が多いので
全く逆なのかと聞いていました。しかし、この結果から農産物に対する皆様の意識の高さを知り、大変うれしく思いました。

大宮さんの講演後には4人の理事が産地訪問して、生産者さんと交流してきたことを報告しました。
沖縄県恩納村のもずく生産者が、おいしいもずくを作るのに欠かせない海の環境を守るためにサンゴの植え付けを
したり、流出する赤土を減らすための努力をしていらっしゃることを報告。高知県ではピーマンなどの野菜に天敵の虫を
利用することで農薬を使わない工夫をされ、人にも虫にも愛があふれた生産者さんの話。北海道の生産者さんは、手間暇
かけて独自の有機農法を研究されていて、農家さんによってやり方も様々であることを知れたこと。飛騨高山の交流では、
トマトや桃などの果物作りのご苦労や努力を目の当たりにしたことや、おいしいものに寄って来る虫対策などに試行錯誤
していらっしゃることを実感。

各理事が見学をした後にいつも思うのは「これだけの労力と手間暇がかかることを知ったら値段が高いなんて言えない
ね。組合員さんにそれを伝えるにはどうすればいい?」です。

そのために今回のような講演や報告、はなしルフレンズ、機関紙を通してお伝えしていきます。また組合員さんが直接
生産者さんの話を聞いたり見学したりする機会を企画して行きますので参加していただき、これからも生産者さんの
応援や買い支えをよろしくお願いいたします。(理事 H.I)





組合員理事の役割と組合員活動について

生協が一般企業と違う大きな点は、組合員さんの中から選出された総代の選任によって組合員理事が選ばれます。役員として理事会(一般企業でいう取締役会)に参加して、総代会で決定された方針がきちんと進められているか確認し、意見します。

アイチョイス岐阜は、理事長・専務理事を含めて理事は11名おり、その11名のうち6名が組合員理事となっています。一般企業で例えると、お客さんが役員の過半数を占めて会社を運営していることとなります。

生協は組合員理事が生活者の視点で、商品に関することや環境への意識、サービスなどへの意見・提案などが生協運営に活かされていると言えます。これが一般企業との大きな違いです。

組合員理事は、理事が全員参加する理事会と、組合員理事が中心で主に組合員さんとの活動について話をする組合員理事会や活動委員会を毎月開催しています。最近の組合員理事会では、アイチョイス岐阜の3年後「ありたい姿」について話をしており、いま何をやるべきか、1年後…2年後というように組合員さんと一緒に、こんなことが出来たらという想像をしながらすすめています。各地域に生産者さんやメーカーさんを招いて組合員さんと交流できるような生協まつりを定期的に開催することや地元生産者さんへの産地訪問交流、生産者さんやメーカーさんを招いての学習会など、



「もっと多くの組合員さんが生協や生産者・メーカーと交流ができる場をつくりたい!」
と思っています。

組合員としての自分たちが求める組合員活動を一步一步すすめていくために知恵を出しあっています。

生協は組合員さんが中心で運営している組織です。

組合員さんが参加していただける活動の場で、多くの組合員さんとお会いできることを楽しみにしています。



2024年度 第5回理事会

2024/10/24 生協富加センター会議室 他
出席:理事10名(11名中) 監事2名(3名中)

【協議決定事項】

ぷらす便対応、お届け票(案)について
2024年9月30日現在の2項組合員について

【報告事項】

月次決算報告について

供給高	9月	201,120千円	予算比 (101.7%)
	前期比		(112.7%)
9月までの累計	9月までの累計	1,224,256千円	予算比 (100.4%)
	前期比		(110.1%)
経常剰余金	9月	-732千円	9月までの累計 1,630千円

仲間づくり(組合員拡大)

加入件数	9月	356件 (計画402件)	9月末の組合員数 20,470人
			前期比 (109.6%)

CO-OP共済

加入件数	9月	5件(計画15件)	9月までの累計 56件
保有件数	9月	2,210件 (前年比+54件)	



2024年度 第6回理事会

2024/11/28 生協富加センター会議室 他
出席:理事9名(11名中) 監事3名(3名中)

【協議決定事項】

「愛知オーガニックウエーブ」フォーラムへの協賛(連合会より)について
上期決算監査について
2024年10月31日現在の2項組合員について

【決議事項】

職員配送開始からの総括及び、アイチョイス岐阜の業務体制について

【報告事項】 月次決算報告について

供給高	10月	218,074千円	予算比 (99.3%)
	前期比		(112.6%)
10月までの累計	10月までの累計	1,442,330千円	予算比 (100.2%)
	前期比		(110.4%)
経常剰余金	10月	1,119千円	10月までの累計 2,759千円

仲間づくり(組合員拡大)

加入件数	10月	383件 (計画362件)	10月末の組合員数 20,718人
			前期比 (109.5%)

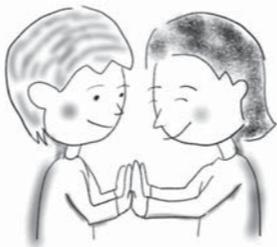
CO-OP共済

加入件数	10月	9件(計画17件)	10月までの累計 65件
保有件数	10月	2,209件 (前年比+53件)	

理事活動 全国オーガニック給食フォーラム 11/8

■ 茨城県 常陸大宮市(オンライン参加)

全国オーガニック給食フォーラムin常陸大宮にオンラインで参加しました。オーガニック給食という言葉は最近よく聞かれるようになりました。日本では139校がオーガニック給食を取り入れているそうです。数年前に話を聞いた時にはほんのわずかだったけれど、ここ何年かで増え、思っていたより多いと思いましたが日本中の学校と考えるとまだまだな数字です。この勢いで増えていけばいいな、と思いました。



今回は鈴木宣弘さん、堤末果さんの講演とオーガニック給食に取り組んでいる地域の方たちのお話と、盛りだくさんの内容でした。

今日本の食料自給率は種や肥料を考えると10%あるかないかくらい。少なさのぼり江戸時代は鎖国をしていたので国内で全て循環できる農法で自給率100%、世界を驚愕させたそうです。それは今から160年ほど前。わずか160年でこんなに変化してしまったのだと数字を見てあらためて感じました。日本は戦後食文化が大きく変わってしまいました。こんな短期間で変わった国にはないそうです。オーガニック給食に取り組むにあたって日本のさまざまな食料事情を知り、考えることが大事なのだと思います。

沢山のお話のなかで「いただきます」の精神で日本から未来を変えましょう、と言われた言葉が心に残っています。「いただきます」は命をいただく、食事のために使われた食材や携わった人に感謝することで、何気なく毎日使っている言葉ですが、他国にはない日本独特な言葉です。「いただきます」はオーガニックの考え方に通じるものがあると思いました。

遺伝子組み換え、ゲノム編集…考えれば人間が上に立ち、植物も動物も我が物にしています。いつでも同じものを食べられる、のではなく旬の食材を使ったオーガニックの物を食べられる幸せは、今を生きることなのだ。私たちも地球の生き物のひとつとして一緒に住まわせてもらっている、という気持ちが大事だと思いました。オーガニック給食を実現しているところは、地産地消を大事にしたりJAと連携したり、オーガニックビレッジ宣言をしていました。そこで共通して言われた言葉が「子どもたちのために」その気持ちでみんな動いているのだと。そしてみんなが協力的でつながりを大切にしているそうです。農業の問題は消費者の問題。食べる側が育っていかねばいけません。日本には全国に協同組合があり、そして知恵と技術がある、と言われました。生協としての役割がみえたように思いました。 [理事 Y.N]

理事活動 岐阜県生協大会 11/8

■ 岐阜市 ホテルグランヴェール岐山

2024年は元日の「能登半島地震」に始まり、大規模な自然災害が多く発生しました。岐阜県生協連では「防災・減災」をテーマに掲げ、毎年の「県生協大会」でも学習を進めています。今年は、「災害時のコミュニティ一刻々と変化する困りごと」をテーマに、清流の国ぎふ女性防災士会会長の伊藤三枝子さんを講師に迎え、ボランティア活動に入られた能登半島の現地の模様を、自ら撮影された写真と被災者の皆さんの声を交えてお話いただき、災害発生時の避難行動や被災者支援活動について学びました。



講演後の質疑タイムでは、アイチョイス岐阜花田理事より、「避難所に行く備えとして、これだけは必要なものは何か?」と質問が出され、伊藤会長から「シリコン製の折りたためる蓋付きコップが避難所では非常に役立っている」と回答をいただきました。